

芸術文化創造センター整備推進委員会 第2回会議 議事録

日 時：平成 26 年 2 月 16 日（日）14:00～17:00

場 所：小田原市役所 大会議室

出席者（敬称略）：

【芸術文化創造センター整備推進委員会】

| | 氏 名 | 選出区分 | 所属等 |
|------|-------|-------------------|--|
| 委員長 | 仙田 満 | 建築学 環境デザイン | 東京工業大学名誉教授 (株) 環境デザイン研究所会長 |
| 副委員長 | 桧森 隆一 | 文化政策 アートマネジメント | 嘉悦大学教授／地域産業文化研究所所長 |
| 委員 | 市来邦比古 | 舞台設備 | 日本舞台音響家協会副理事長 |
| 委員 | 伊藤由貴子 | 劇場運営 音楽系 | 神奈川県立音楽堂館長／神奈川芸術文化財団 |
| 委員 | 井上 允 | 劇場運営 市民活動 | 元厚木市民会館館長 |
| 委員 | 勝又 英明 | 建築計画 | 東京都市大学教授 |
| 委員 | 三ツ山一志 | 施設運営 展示系 | 横浜市民ギャラリー館長・ 横浜市民ギャラリーあざみ野館長 横浜市芸術文化振興財団 |

(委員は五十音順)

※仙田委員長、伊藤委員は所用により欠席

【事務局・設計者】

| | 所属・役職 | 氏 名 |
|-----|-----------------------|--------|
| 事務局 | 文化部長 | 諸星 正美 |
| 事務局 | 文化部副部長 | 原田 泰隆 |
| 事務局 | 文化部管理監 | 瀬戸 伸仁 |
| 事務局 | 文化政策課長 | 中津川 英二 |
| 事務局 | 芸術文化担当課長 | 間瀬 勝一 |
| 事務局 | 文化部文化政策課芸術文化創造係長 | 高瀬 聖 |
| 事務局 | 文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係 | 杉山 和人 |
| 事務局 | 文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係 | 府川 幸司 |
| 事務局 | 文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係 | 鶴井 雅也 |
| 設計者 | (株) 新居千秋都市建築設計 | 新居 千秋 |
| 設計者 | (株) 新居千秋都市建築設計 | 吉崎 良一 |
| 設計者 | (株) 新居千秋都市建築設計 | 新居 未陸 |
| 設計者 | (株) 新居千秋都市建築設計 | 亀田 浩平 |
| 事務局 | (有) 空間創造研究所 | 草加 叔也 |
| 事務局 | (有) 空間創造研究所 | 田原 奈穂子 |

[傍聴者]

13名

～次第～

1. 開会

2. 議題

(1) 基本設計案について

(2) その他

3. 閉会

次第1 開会

事務局

ただいまから、芸術文化創造センター整備推進委員会第2回会議を始めさせていただきます。はじめに、文化部長の諸星からごあいさつ申し上げます。

文化部長

(あいさつ)

事務局

(配布資料の確認) (録音・録画等について傍聴者へのお願い)

では、ここからの会議の進行については、「小田原市附属機関設置条例」に基づく「小田原市芸術文化創造センター整備推進委員会規則」の第6条の規定により、本日は仙田委員長が欠席しているため、代理として桧森副委員長にお願いする。

次第2 議題(1)基本設計案について

桧森副委員長

では、議事を進行させていただく。基本設計については、これまでに市民ワーキングを4回、専門分科会を4回、意見交換会を2回、市民説明会を1回開催してきた。昨年末に実施された基本設計平面プランのパブリックコメントを含め、本当に多くの市民の方からご意見を頂いた。我々専門委員はその中から意見、要望を抽出し、設計者である新居さんに提示してきた。新居さんには、これら多くのご意見、ご要望を受け止めて、今日これからご説明いただく基本設計案を取りまとめている。よい方向に進んでいると実感している。そのことについては新居さんに敬意を表したいと思う。

芸術文化創造センターの施主は市と市民の皆さんである。私たち専門委員の役割は、市と市民がどんな施設を望んでいるか、小田原市にとってどんな施設があったらよいのかということ、市民の皆さんのご意見も受け止めながら、専門家の観点から設計者にぶつけるというところである。その過程においては、設計者とも専門家同士として議論を戦わせてきた。通常はこういった議論は公開されないものである。小田原市ではその議論を傍聴者の前で行い、議事録も公開してきた。傍聴された方や議事録をご覧になった方の中には、もしかすると、専門委員と設計者の間で意見が全く異なるのではないか、という誤解をされた方もいるかもしれない。しかし、専門家同士の議論はそういうものだ。同じ土俵の上で議論を戦わせることで、それぞれ理解を深めていくものである。皆さんの目の前でやることの難しさもあったと思う。しかし、そういったプロセスを経て、この基本設計案はよりよい方向に進んでいる。それは、皆さまにもご理解いただきたい。

今日は、専門委員会として議論する最後の会議となる。私たちも専門家として、見定めて、限られた時間ではあるが中身の濃い議論にしていきたい。

議題にうつる。本日の資料について事務局から連絡事項があるとのことなので、願います。

事務局

(資料(図面)について説明)

桧森副委員長

では、基本設計案について、新居さんからご説明をお願いします。

設計者 新居千秋氏

今回が最後の会議といっても、この案が始まりでもある。皆様のご意見をほとんど全て入れ、また敷地の問題等も解決した案である。物価やコストについてはまだ調整が必要ではあるが、我々としては、自信を持ってご説明できると考えている。

敷地の形状について紆余曲折あり、皆さんもご心配をおかけした。最初は戸惑ったが、現在は避難上の問題等も含めてほぼ100%解決した。もちろん、隣地の方と協議をすることで、より環境がよくなる可能性もあるが、今の環境でおおよそのところは片がついた。敷地の形状により大ホールの客席数や客席からの見え方に多少の影響があり、今後、実施設計で繰り返し検討し、改善を重ねていくことが必要である。1400近い皆様のご意見と、300近いパブリックコメントのご意見についても、僕らの仕事の範囲の中で明らかに不可能なもの以外は、一つ一つ、検討を十分に行っている。基本計画もおおよそ実現出来たと考えている。神奈川県や小田原市が特に厳しい条例を定めていた避難上の問題についてもおおよそ解決した。また、機械室の広さなど技術的な調整も含めて、変更を重ねている。

具体的にはパブリックコメント案以降、以下のような検討を行った。

- ・非常時における大ホールからの避難安全を高める検討
- ・大スタジオからの避難の明快さ、小ホール舞台倉庫の機能を考慮した検討
- ・斜線制限、高度地区制限、天空率制限による建物ボリュームへの制限

建物への高さ制限がある中で、ホールは電氣的な装置を使わなくてもよい音が響く空間にしたいという意志を持って、楕円形の空間を確保しようと努力してきた。必要なものは確保できたと思う。視線のチェックなど、まだ解決すべき問題はあるが、あとは時間の問題である。実施設計の中で、じっくりと検討していきたい。

プロポーザルの際に、外観でガラスを考えていた部分は、コストの問題から全廃した。今は採光や通風を計算し、必要なところに窓を計画している。

この建物は、全国でも自分たちを含めて数社しか出来ない特殊な構造をとっている。設計に通常の3倍くらいの手間がかかるものである。RC耐震壁付きラーメン構造という、震災を無傷で生き残った大船渡市のホールと同じもので、簡単に言えば2×4のような考え方で、壁を主体とした構造である。杭をなくしていくことで、減量(減額)している。皆様のご要望に追従できるのは、柱が一本もないからだ。しかし、変更をする際には3週間から4週間かけて、条件を入れ直す作業をしなくてはならな

い。構造の担当者がそれに耐えてやってくれなくては出来ない。全体的に 50cm 程度の厚さの壁がぐるりと囲んでおり、それがハコのようにになっているので強い。それによって耐震性能を上げるとともに、杭をなくしていくことができる。この敷地は、杭が必要かどうかで、工事費が 1、2 億違う。そういったコスト減も考えている。

1 階は、ギャラリー等の検討を行ない、大スタジオを 8 間に近づけるようにしている。2 階のオープンスペース等は基本計画には記載されていないが、この部屋を無くしたところで穴が開くだけなので、このようなものも計画している。

大ホールのトイレについては、1 階は皆さんのご要望を聞いて真ん中に配置した。2 階は男女分かれるが、男性の方が並ぶ可能性が低いので、避難側にし、何かあった時でも逃げやすい状態になるように配慮した。

4 月から法規が変わり、構造的に天井を滑落しない形にしなければならない。それもコスト増につながる。

基本計画で位置づけられたものを表にして、チェックを行なった。

①広 場：

馬出門の前は 27m×30m くらいある広いスペースとしている。27m というのは横浜の赤レンガ倉庫の隣棟間隔である。イベント等にも使える。小ホールの前は普段は閉じていても、何かあったときは開くことができる。赤レンガ倉庫と同じように電源等を持ってくことも見込んでいる。美術関係の搬入スペースは 3 台の車が止められるように考えている。景観については、500 年の歴史がある場所であり、小田原城をとりまく歴史的な環境として、日本の中でも誇れる場所となるように、いつか将来的に、周辺の建物が全てお堀端通りから 20m くらい引いてくるようなことも想定して、この建物のセットバックを考えている。美術搬入口側の塀の一部は、躯体とは別に将来的に移設が可能なように考えている。イベントの際などに大きく見せるような幕やポスターケースは員数も読み込んで計画している。

②小ホール：

主舞台の広さは 6 間×4 間でもよいのではないかと、という市来委員からのご提案もあったが、僕らは本多劇場と同じ 6 間×5 間で考えている。音響反射板は、天井反射板と正面反射板は吊り込む形であるが、側面反射板は回転させて収納するというのが、コスト的にもよいと考えて、その形で見込んでいる。搬入口はガルウイングにも対応している。楽器庫や倉庫もとっている。以前の案に比べて 21 m²増え、70 m²を超える。客席数は 315 席になっている。車いす席は 6 席である。調整室は大ホールとは違って分かれておらず 1 つだが、300 席前後なので問題ないと考えている。音の専門家は僕らだと思うので、自主的に、気積を計算し、シミュレーションを繰り返して決めている。バーカウンターもある。トイレも、みんなのトイレを増やしている。主催者事務室については、大きさが明快でなく、

他の機能と兼ねる形にしているので「○」ではなく「△」としているが、機能的に問題があることはないと思っている。基本計画では大、中、小という楽屋が記載されていたが、楽屋を細かく分けていくと、全体の収容人数が 20 人程度になってしまう。楽屋の収容人数は 30 人とりたいということで、楽屋割りなど運用で工夫していただくように提案し、大楽屋的な広さの部屋を 3 室としている。技術スタッフ室は小ホール単独ではなく、大ホール、大スタジオとあわせて 9 人程度とって、全体をみてもらう。アーティストラウンジは管理事務室横の会議室を兼用して使っていただく。基本計画にはなかったが、市民の皆さんから必要だという声もあり、大スタジオと兼用でロッカー室を設け、シャワーをつけた。洗濯・乾燥室は大ホールとは別に設けた。機能的には十分に機能している。倉庫も、小ホール舞台袖からも使える形にし、大スタジオ機能と共有できないかと考えてこのような形にした。楽屋口、搬入口についてはシャッター等も検討しており、支障はないと思う。ホワイエまわりもパブコメ案からトイレ形状やもぎりラインの想定などさらに詳細に検討を重ね、改良している。実施設計で更に検討していく。客席については、音響等を検討した結果として壁の形状を変更している。300 席というのは難しい客席数で、コンピューター等でかなり厳密に音響シミュレーションを重ねておかななくては、音が割れたりする。そういったことは、半年くらいかけておおよそ解決している。内部のデザイン等は実施設計で詰めていく。

③大ホール：

主舞台は 8 間×8 間で、反射板は全て吊上げ式である。脇花道が要るか要らないかは両方の意見があったが、仮設できるようにするという対応にしている。搬入口はガルウイングに対応している。倉庫は、舞台上手以外に、オーケストラピットの横の地下に少しだけ足している。僕らが如何ともしがたいのが客席数についてで、1200 程度いうことだが、今は 1173 席であり、まだ音や視線を確認出来ないで、数席ではあるが若干変動する可能性もある。それらのチェックは実施設計の中で時間をかけてやっていく。オーケストラピットについては、以前は手で外すかたちを考えていたが、現在は半手動・半電動といったものを考えている。迫りになっている部分が一部あり、客席椅子は下にしまうことができる。椅子の大部分は自動で格納できるが、一部は手動で外す、という形を考えている。調査によるとオーケストラピットの利用回数は年間 2 回から 5 回ということだ。とはいえ、迫りを使うことはあり、新しい演劇をした場合のことを考えて、その部分は僕らもつけた方がよいだろうと考えた。調整室は照明と音響で分かれるようにということだったので、そのようにしている。トイレ等も改良している。主催者事務室などについて、市民の皆さんから人数が多すぎるのではないかという指摘もあったが、僕は兼用するということも含めて考え、また、そこを減らしてもお金があまり減らないということもあって、バランスを考えて、基本計画にあ

る全ての部屋を設けるようにしている。設計をする者として自信を持って、基本計画の大部分は満たしており、この形でよいと言える。楽屋の数、ピアノが2台入る楽器庫、車いすに対応した楽屋口や舞台への動線確保など、全て応えている。パブリックコメント案の時とは、階段や1階客席トイレの配置、形状を、避難安全等様々なことに配慮して変更している。役所の担当者とも話して、おおよそこれで問題はないと言われている。客席の形状については、まだ変更中で、なんとか見やすい席をつくろうとしている。担当者が専従で半年くらい作業しなくては、ホールはよい音にならない。視線のチェックをした上で、永田音響と音のシミュレーションをするので、壁などがまだ変更になる可能性がある。

④創造支援系機能：

大スタジオは現在7.5間×7間か、8間×6.何間か、という大きさになっている。出来るだけ皆さんの希望に沿う方向で進めているが、展示の利用要望とも重なっているので、実施設計中も何度もシミュレーションし、両方によいものになるようにしていきたい。基本計画と見比べて一番厳しい部分であり、中スタジオはどうしても1階にいれることができず、2階にした。床のみが浮床で、壁も含めた完全な浮床にはできない。小スタジオはボックス・イン・ボックスとしている。ワークショップルームなども、それなりにしている。オープンスペース等は基本計画には全くなかったもので、先日僕がぶつぶつ申し上げたのは、お金がなければやめるというものである。中スタジオは、6間×4間だが、隣に階段があり、廊下の扉を閉めることで、大ホール系で利用する場合に運用でエリアを分けることができるようにしている。

大スタジオは7間×7間で検討を始めたが、ディレクタースペースをとるなど、できるだけ8間×8間に近づけるように検討してきた。8間×8間は敷地の条件からどうしても出来ない。機能を阻害しないでやっていけるように考える。マルチに利用する場合は、ここで使う備品等が収納できなくてはならないので、小ホールとの備品の兼用も含めて倉庫も検討している。

設計者としては、中スタジオ、ワークショップルーム、2つの小スタジオが、お金を払って借りる部屋と想定している。中スタジオは大ホールの楽屋としても使えるので、楽団等が来たときにここで楽器を調整することもできると思う。ワークショップルームは桧森委員から、5グループが平行で作業できるように、という指示をうけたので、偶数である6グループで作業できる広さをとった。キッチンがあるので飲食を伴うパーティができる。両側に水場があり、子どもの絵画教室などにも利用できるようにしている。創造スタッフ室は桧森委員のおっしゃったように、お金をとらない部屋として考えている。会議や印刷に使えるゾーンもとっている。小スタジオでは録音もできるようになっている。託児スペースは、オープンだけれども、子どもたちを預ることができる場所としている。

⑤展示系機能：

350m の展示壁が必要というお話があり、360m 程度の展示壁ができるよう想定していたが、先日、美術系の市民の方から壁と壁の間が狭すぎるとのお叱りを頂いた。それについて今、検討している。搬入口、備品庫については三ツ山委員に見せていただいた横浜市民ギャラリーあざみ野を参考に、同じだけの物が入るように計画したつもりである。リフターもあり、回転できるようにもなっている。照明器具等を入れるスペースや、水場も確保している。ギャラリーは間仕切りにより多様な使い方が想定できる。大きさも、あざみ野と壁一枚分小さいくらいのスペースが確保できている。可動壁は、地震の際にも安全な上から吊って下でも留めるタイプで考えている。前回の建設計画専門分科会で、三ツ山委員より、大スタジオをギャラリー利用するときの可動壁パネルについて、幅が狭すぎることがないように、というご指摘があった。まだ全てが解決できてはいないが、しかし、今はこれくらい見込むことが出来、今後、細かく検討することで何とかクリアできると思っている。実施検討中も検討を重ねて使い勝手のよいものにしていく。

⑥交流系機能、管理系機能その他：

交流系の場所については、プロポーザル時 900 m²くらい、今は 1000 m²くらい見込んでいる。オープンロビーなどは、プロポーザル時は 1120 m²くらいあったが、今は 1000 m²くらいにダウンしているが、インフォメーションなどに使っているスペースまで見込めば十分かと思う。そのスペースは逆にプロポーザルの時に 530 m²くらいだったのが今は 600 m²程度になっているので、多少の増減はあるが問題ないと思う。小ホールのホワイエ、広場との連携を考えれば全体で 2000 m²を超えるので、かなりの広さになると考えている。

基本計画では子ども用のトイレなどが強調されていたが、その部分はみんなのトイレで対応ということで「△」となっている。

管理事務室は 20 名から 30 名程度と記載されており、今は 26 名で計画している。市民の方から多すぎるのではないかと、というご意見もあったが、その分を縮めても、全体にはあまりかわらないので、大空間で事務室をとっておき、運用の方で、例えば 15 名と 10 名のボランティアなど、仕切りながら使っていただければと思う。駐車場は 41 台で認めていただいている。そのためには延床面積が 10,250 m²である必要がある。駐輪場は 100 台程度を見込む。

全体の動線として、楽屋口をそれぞれにとって、出入口は必ず人がチェックできるきちんとした形になっている。僕らのこれまでやってきたホール施設に比べて、そういったことについては最も細かく検討できていると思う。大ホールは階段で 2 階の中スタジオとつながっている。ブラスバンドの大会など、さらに大きなイベントの際には大スタジオで高校生が何校か待つことも出来る。その動線は、市民の方達の動線と

は全く交わらない。大ホール系、小ホール系、ギャラリー系それぞれの機能に対して搬入などのサービスがきちんと附属した形になっている。技術スタッフ室からは、大ホール、小ホール、大スタジオ全てにアクセスしやすいようになっている。

大ホールのトイレは、1階の中央に集中させた。興行場法の約1.5倍の数があり、劇団四季の春劇場とほぼ同じくらいである。春劇場が1260席に対してこちらのホールは1173席なので問題ないと考えている。

車いす利用者の方の駐車場を4台確保することはどうしても難しかった。原則として3台ではあるが、庇の下に入れるので、雨に濡れずに施設に入ることができる。ただし、出入口の管理によっては、事前の連絡は必要かもしれない。スロープは1/20の勾配で、全てできるだけ平らになるように、レベルを調整している。

基本計画に書かれていた部屋は全て設けた。小ホール専用の洗濯乾燥室とゴミ置き場を足した以外は、勝手に変更したものはない。オープンロビーの上部は、1階と2階の間にコネクションがないので、10,250㎡という延床面積にあわせて床や通路をつくった。これらのフリースペースやオープンスペースは、賑わいを生み出すためにも、お金を払って借りる部屋ではなく、無料で人がのんびりできる場所が必要だろうと考えていれている。コスト的にどうしようもなくなれば、やめる。これらのスペースには、一つ一つに空調を入れるコストがないので、ロビー全体の空調で兼ねさせて頂きたい。本を読む程度の明かりはある。このスペースに囲いがあるかどうかはコストの調整による。本棚のようなもので囲むか、全くなしとするかもしれない。賑わいを生むためには必要なスペースだと考えている。フリースペースのタダで居られる席については、プロポーザル時は368席用意する予定であったが、今は1階106席と2階202席で合計308席となっている。ただ、全体でそのくらいの数があれば、ぶらっと来た人が施設にいることができ、施設の活性化は図れると考えている。

模型をつくったりして、細かいところも検討してきた。このあと何かご質問があれば答えられると思う。

桧森副委員長

丁寧な説明ありがとうございました。それでは今、説明いただいた基本設計案について、議論を進めていこうと思う。勝又委員が出席された2月2日の意見交換会の状況や、私が分科会長を努めている管理運営分科会で議論している管理運営実施計画のことも踏まえて進めていこうと思う。大ホールから順に、各機能ごとにご意見をいただきたい。基本的にはかなり解決していると思うが、検討が残っているところがあれば、ご意見を出していただきたい。まずは大ホールについて、いかがか。

市来委員

丁寧にご説明していただいたが、オーケストラピットについて、もう少し詳細をご説明いただけないだろうか。特に、分割の状態、どの部分が電動で、どの部分が手作業になるのか、再度詳しくご説明いただきたい。

設計者 吉崎良一氏

(断面図を部分的に拡大して示す) ピット全体の広さを前3列分と想定している。そのうちの舞台に近い1列分のみを客席ワゴン付きのスパイラルリフト式電動迫りとし、後ろの2列の客席を組立床とすることを考えている。後ろの2列分も客席椅子は取り外し式となっているので、電動迫りを客席レベルまで上げ下げすることで、地下の倉庫に格納できる。

設計者 新居千秋氏

60億というコストを見込むと、この方式であれば、完全に出来る。

市来委員

非常に面白い工夫だと思う。よくあるのは、3列分の客席を、上手、中央、下手と通路を挟んで3分割し、そのうちの一部を迫りとするものである。それでは課題が多いと考えていた。列ごとに分割するというので、手作業で移動するのも2列分ということで、よいアイデアである。電動の迫りを下げれば、残り2列分の束立て床を外す作業も比較的簡単ではないか。一つの工夫であると思う。

勝又委員

オーケストラピットを作った際のピットへの動線はどうお考えか確認したい。

設計者 新居千秋氏

両脇にある広い階段を使って地下1階まで下がれば普通に入れる。そこには、両側に倉庫も少し設けている。

市来委員

その倉庫には譜面台等も入れることが可能であるとよい。

井上委員

1列のみ電動ということで、後ろの2列分は舞台面まで床を上げることはできないということになる。その2列は客席レベルかピットのレベルしか設定できない。

しかし、実際の利用においては、オーケストラによって、微妙に異なるピットの深さを要求される。この方式では、ピットの深さを調整することには応えられない。

設計者 吉崎良一氏

ピットの深さは一定となる。

市来委員

床を上げるということについては、束立ての長さの異なるものを何種類か用意しておくことで対応することは出来る。

井上委員

上げることはできる。

設計者 新居千秋氏

しかし、今の想定位置以上に下げるオーケストラピットはおおよそないと思う。全てを電動にしていけば、お金がものすごいことになる。今できる範囲は、束を調整す

るということだと思う。

井上委員

張出し舞台にする際は、1列分のみが舞台面まで上がってくる。少しは広く使えるという程度ということか。

設計者 新居千秋氏

1列とはいえかなりの広がりがある。6、7mあるのではないか。問題ないと思う。

市来委員

2列目、3列目の椅子が取り外せるということは、1列目を張出し舞台とした時の避難動線も確保できる。今の段階ではよい工夫だと思う。

設計者 新居千秋氏

コスト内になんとか入れようと頑張った。

桧森副委員長

他に大ホールについて、ご意見はいかがか。

市来委員

トイレの数について、平面図を見ると女子は11個、男子は小便器が11個、大便器が4個となっており、まだ男子の方が割合的に多く感じる。男子を減らしても女子の方をもう2個くらい増やしたらどうか。

設計者 新居千秋氏

そういった調整は後からでも出来る。今は、劇団四季の劇場と同じくらいの数が入っている。簡単にできる調整ではあるが、男子の小便器と大便器の個数の比率をどれくらい減らすかなど、まだ考えてみなくてはいけない。

市来委員

では引き続きの検討をお願いします。

桧森副委員長

必ずしも左右対称でなくてかまわないので、検討していただきたい。他にいかがか。

勝又委員

細かいことなので、今後の検討事項ということでかまわないが、大ホールホワイエのカフェカウンターについて、1階に左右2カ所、2階に1カ所、合計3カ所に設けられているが、全てを運営するのは大変である。伊藤委員からもご指摘があったと思うが、今後の管理運営を検討する中で、例えばロッカー等他の機能に転用することも、今後、検討していただきたい。

設計者 新居千秋氏

客としては両方で買えた方がよい。ただ、それは運用の問題なのでやめてしまうという選択もある。以前はカウンターを中央に配置していたが、そうすると、背中側が外から見えてしまう。今の位置の方がプライバシーも高く、近くに椅子もあるので買ったものを持って行って座ることも出来る。僕らとしては、なるべく動線に配慮して

人が溜まらない方向に、買いやすい方向に改良したつもりである。

桧森副委員長

サントリーホールも2階にはバーカウンターはないと思う。止めてしまってもよいのではないか。他にはいかがか。客席の見切れについては今後、詳しくシミュレーションしていただけるということであった。

設計者 新居千秋氏

半年くらい専従で作業すれば、完璧なものになると思う。設計開始当初からずっとやっていたが、敷地の形状に修正があったことで、全体の設定が変わり、やり直しとなっている。まだ、数席、気に入らない部分がある。

桧森副委員長

それは進めていただければよいと思う。他に何かあるか。

市来委員

裏動線については、平面的にはかなりよく考えられてきているように思う。管理上の問題はあるかもしれないが、劇場を管理する人間としては、例えば、大ホールの倉庫に舞台以外の外部からアクセスできる扉が欲しい。例えば、ここにある備品を、大ホール以外の室で使うこともあると思う。大きな扉である必要はないので、舞台を経由せずにいけるルートがあるとよい。

設計者 新居千秋氏

可能だが、庇の下とはいえ、一度、屋外を経由する形になってもよいか。

市来委員

屋外を経由することはかまわない。

設計者 新居未陸氏

遮音上の問題がある。

設計者 新居千秋氏

難しい問題もあるということなので、検討する。

市来委員

必ずしもその通りでなくてもかまわないが、できれば倉庫等へは舞台袖を経由しないルートがあるとよい。裏動線は、できるだけ色々な可能性があるると便利である。

桧森副委員長

大ホールについて他にご意見がなければ、小ホールに議論を移したい。小ホールについては、いかがか。搬入口の先は「組立場」とされているが、実際には荷下ろしと荷捌きが行われるところという理解でよろしいか。

設計者 新居千秋氏

エクspansionジョイントはあるが、荷下ろしした物を倉庫にも舞台にも運べる。楽器庫もここにある形にしている。

市来委員

小ホールの楽屋については、アーティストラウンジという名称ではなくても、ケイタリングを置く場所は必ず必要になる。長机の上にコーヒーポット、お菓子を置く。

設計者 新居千秋氏

倉庫を縮めてよければ、アーティストラウンジを設けることはできるが、今は、管理事務室横の会議室と兼用すると考えている。

市来委員

出演者によっては、出演の寸前に飴をしゃぶって出て行く人もいる。今の平面図を見ていると、楽器庫の前あたりにそのような設えができるとうい。

設計者 新居千秋氏

やろうと思えばできると思う。楽器庫の前はできるだけ広くとった。

市来委員

もちろん、出し物によって必要とされないものもあるが、そういったこともありうることに配慮して、仕様を決定して欲しい。

設計者 吉崎良一氏

水場は必要か。

市来委員

給湯室は管理事務室の方にあるということであれば、それでよい。

桧森副委員長

長机を置いて、その上にポット、お菓子、サンドイッチなどが並ぶ。

設計者 新居千秋氏

置く広さはある。

勝又委員

仕上げや照明で、そういうことが気持ちよくできるように少し工夫しておいていただければそれでよい。どうせ公演中は楽器庫に出入りすることはないので、そのスペースを活用していただく。

市来委員

そこが暗いというのは困る。そういったところがないと、廊下をつぶしてケイタリングを置くことになる。廊下がつぶれると、安全上で問題になることもある。廊下も広めではあるので、大丈夫かもしれないが、できれば、どこかにそのスペースを考えてほしい。

設計者 新居千秋氏

何か工夫をする。

市来委員

搬入口まわりのシャッターの想定を教えてほしい。

設計者 吉崎良一氏

使い勝手は、シャッターは最小限としたかった。しかし、駐車場の付置義務台数

の関係上、搬入車庫を荷解きスペースの駐車場としなくてはならない。そうすると法規上、駐車場の区画が必要となる。本来であれば搬入車入口に防音シャッターを2枚つけて、内部にはシャッターを設けない形にする。しかし今回の案としては、遮音性能の問題もあわせて、あえて、入口に1枚と、防火上の異種用途区画のシャッターとして組立場と搬入口の間に1枚としている。

勝又委員

安全上のことも言えば、組立場と搬入口の間にはシャッターがない方がよい。シャッターを開けると、すぐに搬入車デッキになっているため、シャッターを開けたとたんにデッキから落ちる人も出てくる。危険である。シャッターを3枚とすることも含めて検討頂きたい。

設計者 新居千秋氏

今は確約できないが、3枚の方向で検討する。

設計者 新居未陸氏

現在はシャッターに子扉がついたものを計画している。

市来委員

シャッターを開けた位置から1歩分でもデッキがついていれば、少し違ってくるのではないか。それでもよい。

それから、ゴミ置き場については、ゴミを階段を下ろして運ぶ形になるのだろうか。

設計者 新居千秋氏

ゴミ置き場は、廊下側、搬入口側の両方に扉がついており、通り抜けができる。

市来委員

しかし、搬入口のデッキ分の段差はある。

設計者 新居千秋氏

ゴミ収集車が搬入口まで入ってくるかどうかまではわからない。今は、ゴミ置場は、施設側からゴミを出して、扉を閉められる、空調等の臭い対策の設備がある室としてしている。ゴミ収集車に対しては、ゴミ置き場まで運ぶのが面倒であれば、収集車を施設内に入れるというのが妥当だと思う。しかし、それは運用の問題である。僕らは、施設内部側に開き戸、搬入口側に引き戸を設けた。ゴミ収集車をどこに止めてもらうかは、今後交渉していただいて、その位置に出せるようにしようかと思う。

井上委員

ゴミ置き場については、市のゴミ収集車が来ることになると思う。パッカー車でゴミを集める人の立場からすれば、できるだけ近くから放り込める方がよい。しかし、そうすると、小ホールに音が漏れる可能性がある。すると、先ほど議論になったシャッターは絶対に必要ではないか。

あと、トイレの位置について、小ホールだけが、男子が左で女子が右である。大ホール、大スタジオにあるトイレは全て男子が右で女子が左である。ギャラリーは男子

が左で女子が右である。使う側からすると、右にあったり左にあったりするのは戸惑う。小ホールに行ったことのある男性が、大ホールにいった時に左のつもりで行ったら女子だった、ということがありうる。統一されていない。配置に意味はあるか。

設計者 新居千秋氏

これまで大ホールについて、複数の問題を解決するために検討を重ねてきて、変更をしてきた。一般的に女子の方が混むので、避難動線にあまり影響のない左側に配置するのが正しいと僕らは読んでいる。そして、右を男子とした。そのような変更を大ホールについては行なったが、小ホールはまだ変更していない。小ホールも手前が男子に、奥が女子に、と同じようになると思う。

井上委員

避難上というよりも、私はお客さんの動きを気にしている。ホールに来慣れると、「この施設のトイレは右だ」と思いこむ。突然左側にあったりすると、女性のトイレに行ってしまうこともある。最近は特に（ジェンダー等に配慮して）男性用は青、女性用はピンクといった色分けをしてはいけないという風潮もあり、そういった例も少ないのではないか。色で識別できるようになるならそれでもよいが、人の習性に配慮した配置にしていきたい。

設計者 新居千秋氏

サインについては、まだ査定中だが、配置については、この1、2ヶ月は大ホールの検討を中心に進めてきたので、今後、施設全体を改めて確認し、見直す。表示については、今は、ピクトがあるサインを考えている。その上で、手で触った時にわかるようにするかどうかは、今後の検討となる。障がい者の方にも配慮し、議論の上で決定したい。

井上委員

では、それで検討をお願いします。

桧森副委員長

小ホールについてよろしければ、ギャラリーに議論を進めたい。細かい問題について議論しているように見えるかもしれないが、実は大きな問題はほとんど解決されているという状態の中で、気になっているところを確認している。ギャラリーについていかがか。

三ツ山委員

移動壁が課題である。幅が1.8mと前回伺ったので、これをできるだけ広くできないかとお願いした。展示壁の幅は広いに超したことはないが、広ければ広いほど重くなるのも確かだ。しかし、それでも1.8mは少ないというお話しをさせていただいた。

また、市民の方の要望に応えようと一生懸命努力されて移動壁の組合せを工夫されたと聞いている。しかし、やはり、壁と壁の間の広さは絵の大きさにもよるが5m前後というのが現在の常識となっている。部屋をどう使っていくかという話は個人の好

みもあり、言い出せばきりが無い。とはいえ、常識的なところでは、10m 四方の部屋であれば、半分に仕切って 5m の幅になる。15m の幅の部屋であれば、3 等分できるだろう。それ以下の部分については、議論は難しいだろう。とはいえ、展示壁自体は、利用される方が勝手に動かすものではなく、事前に希望を伺った上で担当者がその設えをするのが貸しギャラリーの基本である。壁の重さについても、多少は訓練されている人間が動かすことが前提であり、対応可能なのではないかと。

今整備を進めている横浜の市民ギャラリーでは、移動壁が木でなく、スチールの枠の中に木が入る形で計画されていた。木とスチールが共存することはありえない。変更をお願いしているが、私の知らないところで話が進んでしまっていたので、大変な事態になっている。そういったことがないようにしていただきたい。

また、展覧会でお貸しする際にはワイヤーでの作品の吊下げが基本となるが、本格的な展覧会では壁やねじを打つ可能性もある。それが可能な材質としていただきたい。

それらを含め、壁の仕様に関してはくれぐれも考慮していただきたい。

設計者 新居千秋氏

今回はこのパネルを吸音に使うことはないと考えている。2400mm ではなく 2300mm とすると、周囲にも壁が置けるので、その大きさで考えている。ポーチのところも木をまわすことはできる。しかし、移動壁を木だけでつくって作品を吊下げられるかという、それは難しい。釘は打てるようにするが、芯にはある種の金物が入ってしまうことは仕方がない。それを全く無しにはできない。

三ツ山委員

木というのは表面だけの話しである。

設計者 新居千秋氏

表面だけであれば、巻き込みまで含めてきちんとできる。芯まで木でできる技術はない。大スタジオについては、スタジオの基本を傷つけないように、格納したところを閉めようと今は考えている。そういったことも含めて、どのようにすると、より 8 間に近づくか、移動壁の行き場を考えている。それは時間を頂いて検討したい。

桧森副委員長

今のお話は大スタジオにも関係する。大スタジオに話題をうつしたい。いかがか。

市来委員

大スタジオだが、パネルについては、もう少し詳細なご提案を待ちたい。それ以外のことだが、上部に技術バルコニーがまわっている。今は西が開いたコの字型だが、公演利用を想定すれば、向きを変えて、北が開いたコの字型とした方がよいのではないかと。また、パネルも西側ではなく北側か南側に格納することで、間口 8 間を確実に確保できる状態をつくっていただけないだろうか。奥行きが多少減ってもかまわない。公演利用の際には、北側を舞台として「ディレクタースペース」と名付けられた空間まで客席をつくれると、パネルの格納によって奥行き方向が減るマイナスをカバーで

きる。間口の8間を確保して、北側を舞台と想定した方が、小劇場的な使い方にはよいと思う。それでも70～80人分の客席を並べることができるのではないか。また、小ホール公演の稽古利用の際も、6間の舞台に袖、走り込みを含めて空間を設定できる。今の向きでは、ディレクタースペースが活かない場所になってしまう。ディレクタースペースを含めた南側を客席にするのが一番よい。小劇場的な要素も検討してつくった方がよい。また、公演を想定して照明、音響等のコンセントはきちんと確保していただきたい。

思いつきではあるが、キャットウォークを十字に置いて、その下に展示パネルのレールがあれば、うまくいくような気がする。照明等の配置も想定していただきたい。中央にキャットウォークがあるとパフォーマンスをする場所としては有効である。

設計者 新居千秋氏

今は全面すのこを想定している。

市来委員

すのこの上には人が入れるか。6mの空間の上に2mのすのこがあるのか。

設計者 新居千秋氏

その通りであり、人が入れる。

市来委員

では詳細は実施設計での検討でよい。ただ、バルコニーの向きだけは変更していただいた方がよいように思っている。全面すのこになっているということは、人手があれば、上から何かを吊ることは可能になる。

設計者 新居千秋氏

吊物を全て電動と言われると、予算を超えてしまうので出来ないが、モーターを持って上がっていただければよい。すのこに上がる口も見込んでいる。

桧森副委員長

市来委員から指摘があったうちの、バルコニーの向きの問題は検討して頂きたい。また、先ほど三ツ山委員から壁間が5mというお話があったが、大スタジオも壁間が5mということであれば、だいぶ想定が変わり、移動壁が減るのではないか。

設計者 新居千秋氏

市民の皆さんとお約束した「100枚飾れるようにする」ということがあるので、もう一度検討してみたいと思う。14mくらいあるので、3.5mを超えるくらいで割っていた。沢山の絵を飾りたい日もあると思うので、それはそれとして、今お話があった壁間5mというパターンで両方検討してみる。今想定しているパネルで幅が1.8mのものも若干は残している。

三ツ山委員

皮肉なもので沢山の展示物を飾る展覧会ほどお客さんも沢山くる。だからこそ、壁と壁の間はきちんと広い方がよい。片方を見ていて、もう片方の壁にぶつかるような

ことはあってはならない。長い歴史を持って多くの作品を展示してきた方々がいらっ
しゃって、それに対しては応えづらいという面もあると思う。しかし、やはり、作品
をよりよく見てもらいたい、安全に見てもらいたいという意味では、4m に満たない
壁間距離は狭すぎる。まして、移動壁自体も4mの壁である。狭すぎる。

設計者 新居千秋氏

とにかく時間を頂きたい。検討する。

勝又委員

大スタジオはスタジオという大前提があり、ギャラリーが主目的ではない。公演も
する、ということが前提の空間で基本計画をまとめている。念のため確認をしておき
たい。

桧森副委員長

ここで一度休憩を入れたい。10分間の休憩とする。

＜ 休 憩 ＞

桧森副委員長

では、議論を再開する。中スタジオについてはいかがか。

市来委員

中スタジオを単独で何らかの形のイベント等で利用した時に、バックヤード的な部
分が全くないのが気になっている。一方で、大ホールの楽屋利用を考えると、2階廊
下のエリアを区切る扉の位置を変更し、中スタジオの2つの扉の中間の位置に廊下を
仕切る扉がある方がよいのではないか。そうすると、中スタジオ単独で使う際も、そ
の扉がロールカーテンなどで中が見えないようにできるものであれば、そこから先の
廊下の空間をバックヤードとして使うことが出来る。その方が使い勝手がよいように
思う。

設計者 新居千秋氏

僕らの中でもまだ十分に検討できていない点もある。扉については、市来委員のご
指摘の位置の方がよいと思う。なお、今、僕らで検討していたこととして、ワークシ
ョップルームの部分にも常開の扉をつけ、大ホールの楽屋利用ができるようにしよう
かと考えていた。そういった部分も含めて、バックヤード的に使える空間についても
工夫をする。そういったご意見を頂けてよかった。より多機能に使える方がよいので、
その方向で改良を考える。できるだけ賑やかに使ってもらいたい。

桧森副委員長

こういった扉によって使い勝手はがらりと変わるので検討をお願いします。

市来委員

今後の実施設計の中で、中スタジオで出せる音の限度を設定し、提示していただき

たい。管理運営の方で、それをふまえて貸出しの規則をつくっていく必要がある。

設計者 新居千秋氏

床は二重にしているが、壁面も二重にすると、有効広さが1mくらい減ってしまうので、通常の音が漏れない程度の仕様としている。ドラムや和太鼓はできないと思う。

桧森副委員長

打楽器はできなくてもよいが、管楽器の音出しくらいは出来ることが望ましい。吹奏楽などのパート練習などを行うこともある。トロンボーン5本だけ集まって音を出すなどの想定は可能である方がよい。

市来委員

それはなるべく小スタジオ、大スタジオを使って頂くということもありうる。ただ、どこまでが可能なのかという条件は設計者から提示いただく必要がある。遮音性能は壁と床だけでなく、扉によっても違ってくる。

設計者 新居千秋氏

性能は上げていく方向で考える。今の時点では、床は見込んだ上で、扉の仕様をどこまで上げていくか検討中である。

桧森副委員長

いずれにせよ、吹奏楽団がフル編成で一斉に音を出す想定はない。パート練習やリハーサルの利用は考えられるので、引き続き検討をお願いします。他にいかがか。

井上委員

中スタジオはワークショップ等でピアノの利用が考えられる。ここに常設するのか、エレベータ経由で運んでくるのかによって異なると思うが、今はどのようにお考えか。運ぶ必要があれば、扉の幅にも配慮していただく必要がある。

桧森副委員長

合唱の練習を考えれば、備品としてアップライトを入れておくことが考えられる。

井上委員

本当はセミコン程度があるとよいと思う。

市来委員

セミコンがあると演劇系の稽古ができない。ピアノの上が荷物置場になる。

設計者 新居千秋氏

アップライトを置けるスペースは検討し、確保する。

三ツ山委員

ワークショップルームが2つあるが、流しがあるのか。

設計者 新居千秋氏

ワークショップルームは2室というより、間仕切りにより1室にも2室にもなるように考えている。狭くはない。机とイスをしまう倉庫もある。

三ツ山委員

ここの水場のイメージは、お茶碗を洗うような水場のイメージか。

設計者 新居千秋氏

一方はそのような流しだが、もう一方は4人が並んで使える程度の、やや低い、地流しのようなものを考えている。

三ツ山委員

安心した。

設計者 新居千秋氏

大船渡での経験から、水回りがある方が災害時にも有効と考えて設けている。

桧森副委員長

中スタジオについては以上でよろしいか。

市来委員

2階の他の諸室についてだが、授乳室の位置は工夫していただけないか。

設計者 新居千秋氏

みんなのトイレとおおよその大きさは同じなので入れ替えることはできる。

勝又委員

位置を変えたいという意図はなにか。

三ツ山委員

私の意見でもある。赤ちゃん、子ども、というイメージから、託児可と描かれたスペースにはかなり小さな子どもとお母さんがよくいることが考えられる。託児可というスペースと、男子トイレの入口が向かい合うのではない形にして頂きたい。それだけで雰囲気が変わると思う。また、授乳室は、トイレは、本当は清潔だとは思いますが、イメージとして、トイレの奥ではなく、もう少し明るいイメージがよいかと思う。

設計者 新居千秋氏

検討するが、僕らの経験から、託児スペースのベビーベッドを置く位置から授乳室への動線をできるだけ短く考え、この方がよいと考えた。授乳室は奥まった位置ではあるが、もう少し広げて快適にすることはできる。託児スペースについては、秋田や唐木田などでやっているシステムであり、評判は悪くない。もう少し工夫はできると思うので、よほど、皆さんが嫌だと言わない限りは位置的にはこの方がよいと思う。光も入れられると思う。考えはある。

市来委員

明るさがあるのであれば、よいと思う。明るくなるように、検討していただきたい。

設計者 新居千秋氏

今は、奥は女子のゾーンと考えている。授乳をお父さんがやる可能性は低く、基本的には女の人の方が多く使うと思うので、授乳室は女子トイレに近い方にしたい。暗くなることはないようにつくる。お時間を頂きたい。

三ツ山委員、市来委員

承知した。

桧森副委員長

他にいかがか。

市来委員

オープンスペースについては、出来たときが楽しみである。全て高さが違うので、平面図だけでは理解が難しい。出来てみると面白い場所だと思う。この高さの違う面白い空間を壁で囲ってしまうのはもったいないのではないか。

設計者 新居千秋氏

このスペースは、ちょっとした打ち合わせに使えるような空間と考えている。ここは、オープンロビー全体の空調でまかなえるようにしないと、お金がかかってしまう。下からきた人が、昔の町家を歩いているような感覚で、できるだけブラブラいられるようにしたい。それぞれのスペースを囲むものとしてはお金によって書棚程度、なければベンチ程度を考えているが、コストがなければ空間だけとなる。大きな模型をつくってこれから考える。入口から2階を見えるようにした。部屋にはできない。

市来委員

部屋にはしない方がよいと思う。

設計者 新居千秋氏

今、考えているのは、このスペースの周囲に棚を設けて本や楽譜を置けるようにし、図書スペース的にも、ブラブラといられる場所をつくろうとしている。これらのスペースを止めても下が見えるだけである。コスト的にどうしてもなくなれば、穴をもっとあけていくが、今のところは2階にもフリーのスペースとして席を設けて、なるべくアットホームな感じにしたい。詳細はこれからの検討になる。

勝又委員

大ホールのホワイエと、このオープンスペースの通路のレベルは同じだと思う。大ホールのホワイエと中スタジオ側の廊下にはレベル差があるか。

設計者 新居千秋氏

そこにはレベル差がある。中ホール側の廊下は小ホールの搬入車対応の高さで決まっており、大ホールのホワイエは客席の勾配で決まっている。それを、オープンスペース部分の通路を1/15などの緩やかな勾配にすることで調整している。

勝又委員

大ホールを使っていない時に、オープンスペースの連続の様な形でホワイエが開放できればよいかと考えた。

設計者 新居千秋氏

それは可能である。

勝又委員

できれば、オープンスペース側からホワイエを経由して中スタジオ側に通り抜けが

できるとなおよいと考えた。

設計者 新居千秋氏

残念ながら、そういうわけにはいかない。レベル差があるので難しい。

勝又委員

承知した。しかし、大ホールで公演を行なった際に、2階のホワイエから、帰りなど、外へ出ることも可能と思う。

設計者 新居千秋氏

当然使える。防災上、避難動線としても、2階のホワイエ出入口を設定している。

桧森副委員長

複数のレベルの違うオープンスペースというのは、建築側からご提案を頂いたことなので、運営の方で、この空間を楽しく演出することを考えていきたい。

では、1階事務室等の動線に話題をうつしたい。

市来委員

1つは大スタジオ前のトイレについてである。このトイレでカバーするのは、大スタジオと管理事務室の常駐スタッフであり、これほど大きくなくてよいのではないか。

設計者 新居千秋氏

小ホールで出演者が多い際の補助としても見込んでいる。また、管理事務室に26人おり、技術スタッフ室にも人がいることに加えて、大スタジオの利用者を考えれば、これくらいのトイレ数が必要だと思う。もう一度計算してみるが、おそらくこれくらいの数が必要だと思う。これを減らす必要があるのか。

市来委員

大スタジオを公演利用するときの控室がないので、できればどこかにとりたい。トイレを小さくして控室をなんとかとれないだろうか。

設計者 新居千秋氏

とれない。それは難しい。

市来委員

もう一つ、技術スタッフ室と会議室の機能を入れ替えてはどうか。そうすると面積的に技術スタッフ室は狭くなるが、管理事務室との境界を取り払って一体にして利用し、今の案の技術スタッフ室部分を会議室、救護室、控室などの多目的な部屋にできないか。また、現在、事務関係の倉庫がないので、小ホールの倉庫を少しこちらに持ってこられないだろうか。そういったことからトイレを小さくできるとよいと考えた。

設計者 新居千秋氏

管理事務室と会議室の間の壁は、取り払えない。管理事務室は1㎡も増やすことができない。管理事務室は100㎡以下なので告示等の解釈で「自然排煙でよし」と出来ている。しかし、広くなったとたんに、機械が増え、お金もかかる。また、管理事務室の壁に沿って描いているのは家具や盤関係のものである。収納も設けている。26

人というのは、今までの僕らの経験ではなかったが、それでも印刷に必要なスペース等を見込んで入れている。そういったことで細かく全体のコストダウンを図っているので、簡単に変更ができない。

また、市民のロッカーと職員のロッカーは別の場所になっている。技術スタッフの部屋は会議に使うこともできるとは思うが、会議以外に応接室も必要ということや、職員がお昼ご飯を食べる場所も考えると、会議室は管理事務室の横がよいということ想定してこの配置にしている。

ランニングコストがかかる機械排煙を避けている。全体に自然排煙として、コストダウンを図っている。管理事務室は、26人は多いという市民の方の声もあり、この通り机を並べないかもしれないが、ボランティアの人がくる可能性もあるので、これだけの広さはとっておきたい。壁側に並んだもののうち×が入っているものは防災センター機能を持ったパネルなので、これはどけることができない。

桧森副委員長

他になにかあるか。

三ツ山委員

ギャラリーのところで、移動壁の仕切りの中でスタッフが休憩するというプランもあったが、全面を使う時に、関係者が控えておき休憩をする部屋がない。受付が交替で休憩をとったり、私物を置いたり、昼ご飯を食べたり、お客さんが来たらお話しをするなど、オープンではない部分の部屋がやはり必要である。

勝又委員

ご要望を出すタイミングがもう遅いのではないか。

三ツ山委員

新居さんなら、今からでもなんとか出来るかと思った。

設計者 新居千秋氏

清掃員の方がどこにいるか、という問題がある。今はちゃんと窓のある部屋にいますが、例えば、オーケストラピットの横の倉庫の部分に押し込めてよいということであれば、ギャラリーのためのそういった部屋をとれる可能性はある。ただ、あまり環境の悪いところに人を入れるのは好みではない。

井上委員

窓や明かりはあった方がよいが、しかし、清掃員控室を今計画されている位置に置く理由はないのではないか。ユニフォームを着た清掃の方に表の目立つところをあまりうろうろされても困る。本当は事務所エリアの近く、技術スタッフ室等のあたりがよい。小ホールの倉庫等を工夫して確保することはできるのではないか。

設計者 新居千秋氏

清掃員の控室は窓のない部屋という施設も沢山ある。もし、どうしてもということであれば、地下のオーケストラピットの倉庫を改造して、設けることはできる。基本

的に、小ホールの倉庫は足りないと考えて、毎回1㎡でも増やすようにしている。清掃員の人はずっとそこにいるわけではないので、地下でもよい、と言って頂ければ、そのようにする。地下に光を入れることも出来ないわけではないが、お金がかかる可能性もある。今の案でこの位置になったのは、面積的にここしかなかったの、ここにした。ただ、この位置に誰か人がいると、駐車場側から入ってくる人の手助けもできるのではないかと思った。外構のメンテナンスもあると考えて、この位置にした。ギャラリーの東側廊下の幅は、避難の問題もあり、縮めることができない。一つの可能性として、ギャラリー倉庫に照明器具等をしきょうとしても、その格納棚を綺麗につくり、真ん中の空いたスペースを控室として使って頂くことは可能かと思う。

清掃員が地下でもよいと言っていただけか事務局と相談する。清掃員はいつも寂しいところに入れられているが、そうすると、気分が乗らなくてちゃんと掃除してくれない気がするの、僕はそうしないように大抵は配慮している。検討する。

桧森副委員長

項目としては最後まできていると思うが、いかがか。他に何かないか。

井上委員

大スタジオの脇にあるクロークだが、廊下にはならないのか。

設計者 新居千秋氏

今、そのあたりは、市来委員のご指摘もあるので、全体的に変更する。また、クロークかロッカーかについて、文化の格調の問題で、桧森委員と意見が合っていない点もあり、僕の方からいくつかの案を出して議論できればと思っている。

井上委員

クロークが大ホールエリアの外にあるということは、クロークを利用するのは大ホールを使う人も小ホールを使う人もということになり、劇場側がここに人を配置する必要が出てきてしまう。大ホールの中にクロークがあれば、大ホールを借りた主催者が運営すればよいが、この計画では、人を常に置かなくてはならず、運営上のコストも課題となる。

桧森副委員長

ここについては新居さんからのご提案があると思うので、それを待ちたい。ただ、井上委員がおっしゃるように、動線として、通れる可能性はあった方がよい。

設計者 新居千秋氏

しかし、以前どなたかに、大スタジオの裏周りが見えてはいけない、と言われた。

市来委員

大スタジオやロッカー室等への出入りの裏動線が、表を通る一般の方からばつと見えるのはいかがなものか、という指摘はした。大スタジオでバレエの練習などをする場合は、ロッカー室から大スタジオの間は、タイト姿で行き来することになる。

井上委員

着替えは大スタジオ内の倉庫を使うこともできるのではないか。

設計者 新居千秋氏

先ほど言ったとおり、倉庫は既に備品がいっぱいで余分なスペースがない。

井上委員

では仕方がない。しかし通れる可能性はある方がよい。

設計者 新居千秋氏

もう一点、クロークについては、桧森委員からもロッカーの方がよいという指摘を頂いているが、格調の問題がある。日本ではクロークを運営するのにお金がかかるという理由でとってしまうことが多い。しかし、ロッカーや廊下だけがあるよりは、格調が高い方がよいだろうと僕は考えている。先ほど、桧森委員にも、文化の問題として話したいと言った。折角、盛装して公演を観に来た時に、その入口の横に裏通路やロッカーがあるというのは果たしてよいだろうか。アメリカやヨーロッパ、東京でもオーチャードホールやサントリーホールなどお金を取る高い施設には、クロークはきちんとある。その格調を小田原は持つべきかどうか、人件費がないから止めるかという話だと思う。僕は、ボランティアで運営する人をつくってでも、そういうものがあつたほうがよいと思う。確かに、僕らがこれまでやってきた田舎の施設では、クロークを利用する率は半々であった。しかし、いつか僕らの国があるレベルの文化になった時には、どちらがよいだろうか、ということだ。

先ほど市来委員からご指摘があつたことも含めて、このあたりの配置は見直し、大スタジオは北側を舞台として公演利用する場合の入口などにも配慮して考えてみる。しかし、倉庫はたくさんあるように見えるかもしれないが、実際の運用を考えると、小ホールの倉庫はこの2つの倉庫でも小さいと言われる可能性があると考えている。大学での研究データに基づいて、大ホールで100~150 m²、小ホールで70~100 m²の倉庫が必要と考えており、今は70 m²を少し超えた程度である。時間を頂きたい。

桧森副委員長

そこは今の話を含めて今後の検討ということにして頂く。

設計者 新居千秋氏

先ほど三ツ山委員が言われたギャラリーの控室についてだが、例えば駐車場に体の弱い方が来られた場合に入出りを助けてあげるということを考えても、この位置には、清掃員の方たちよりは、ギャラリー関係の方がいつもいてくれる方がよいと思う。

井上委員

駐車場側の扉は常に開いているわけではないと思う。人が常駐しなくても、管理事務室のモニター映像等で管理し、電子ロックで開閉する形であれば管理できる。

設計者 新居千秋氏

そうした場合でも、人がいればなおさら親切かと思う。

井上委員

人がいられればよいが、そうでない時でも管理できるようにすべきだ。技術的には、できるはずである。

設計者 新居千秋氏

なるべく人に優しい施設にしたいというのが基本的なスタンスだ。

井上委員

それはよい。

桧森副委員長

文化の問題というのについて一言、言っておきたい。北海道にある札幌コンサートホール Kitara にはクロークが常時あり、どの公演でも必ずクロークが使われる。それはなぜかと言えば、厚いコートを着ているからだ。ヨーロッパもそうだ。分厚いコートを着て客席に入れば邪魔になるので、クロークは必ずある。しかし、暖かい浜松は、クロークがあっても一切使われない。文化というよりも気候の違いもある。

勝又委員

毛皮は吸音するのでホールの音響に強い影響を与える。

桧森副委員長

音が違ってくるので、主催者も分厚いコートは預けていただくようにする。

設計者 新居千秋氏

皆様のご意見を聞いて、より収納が多く、人が見えず、通り抜けができることを何か考えようと思う。しかし、基本設計ではそこまでいけない。少し時間を頂きたい。

桧森副委員長

承知した。ひととおり、すべての機能について議論できたと思う。おおまかには良い方向で出来ていると思う。細かいところを少し付け足す形で議論させていただいた。

設計者 新居千秋氏

ひとつだけ、僕から質問させて頂きたい。大ホールホワイエの売店、カフェカウンターを2カ所ではなく1カ所でよいとしていただければ、検討しやすくなる。例えば上手側を止めてよいと言っただけならば、ギャラリー関係の部屋を押してこることができる。今は両方につけている。僕は決断ができない。客の立場で言えば、2カ所ある方が、わざわざ遠い方に行く必要がなくてよい。

市来委員

買いに来る側ではなく、売る側の人員配置として難しいと思う。

設計者 新居千秋氏

そう言っただけだとありがたい。1カ所でも僕のせいではない。

桧森副委員長

私の今までの経験でも、設備としては2カ所あっても実は1カ所しか使っていないという施設が多い。人件費の問題がある。

設計者 新居千秋氏

劇場関係の委員の方によいと言っただけならば、1カ所として、そこも含めて検討し、しっかりしたギャラリー控室を検討する。カフェカウンターも片側だけとはいえ、劇団四季程度の大きさは見込んでおり、きちんとできるように考える。

桧森副委員長

最終的には市の意向があると思うので、事務局に確認する必要はある。しかし、専門委員としては、カフェカウンターは片側でよいと考える。

市来委員

ただ、その変更で左右非対称になるのであれば、エレベータまでの間に人が溜まるようになるのではないかが心配だ。

設計者 新居千秋氏

それは並ぶ人数を計算し、人が通れる長さを見込んでいるので大丈夫だと思う。上手側のスペースを美術系の人に渡して改善する。カフェカウンターは1カ所で問題がないように検討する。

勝又委員

バーカウンターは2階席にもある。2階1カ所では不十分か。

桧森副委員長

2人は配置できない。

勝又委員

どこか1カ所でよいのではないか。

設計者 新居千秋氏

2カ所必要になるくらい流行った方がよい。僕らがこれまでに手がけた施設では2カ所設けて、何となく市民の方がやったりしている。運営の仕方によるのではないか。止めるのは簡単だが、増やすのは難しい。

市来委員

2階席のバーカウンターについては、例えば、コップで出るコーヒーやジュースの自販機を置いて、そこで買ってその周りで飲む、という形にしている施設もある。自販機でも結構おしゃれなつくりになっている。

設計者 新居千秋氏

今計画しているバーカウンターの大きさは、劇団四季の劇場の中間階でコーヒーを売っているところと同じ大きさにしている。1階も同様である。

桧森副委員長

ここは運営にもからむ問題なので、整理して今後の検討とする。他にご意見はないか。では、本日頂いたご意見は、いくつか宿題もあるが、事務局で整理していただき、本日欠席の仙田委員長、私、設計者と事務局で協議しながら責任を持ってとりまとめ、最終的に、新居さんに反映していただきたいと思うが、よろしいか。

委員

異議なし。

桧森副委員長

では、そのように進めさせていただく。なお、委員の皆さんの中で、本日の検討内容について改めてご意見がある場合は、事務局へ出していただきたい。

次第2 議題(2)その他

桧森副委員長

議事の(2)その他というところで何かあるか。今回が最後の専門委員会となるので、一言ずつお願いする。

井上委員

今更、難しいかもしれないが、私は、オーケストラピット迫りはもっと広く一気に上がり下がりできるようにして頂きたいと思っている。

三ツ山委員

大方固まった設計を前提に、これからは人がどう動くかといった、管理の方の検討が課題になってくると思う。

勝又委員

それにはシナリオ法という方法がある。館を運営する場合の大ざっぱなシナリオをつくってみて、人を動かしてみてもチェックをする、とういうことをやった方がよい。そうするとまた、管理運営で考えなくてはいけない部分、建築側で設備的に解決しなくてはいけないことが出てくると思う。新居さんの設計は極限設計で、ご苦労いただいたと思うが、基本計画をほとんど実現していただいたと思う。

市来委員

細かいことを色々言わせて頂いたが、基本的には、現段階でバジェット上限が決まっている中で努力をしてきていただいたと思う。最初に一番の問題であったことは、面積的なことも含めて処理していただき、ここまでのどり着いてよかった。実施設計の中で、よりよいものを目指したい。また、内装や外装をどうしていただけるのかも楽しみだ。無い袖をふるうのが設計事務所の腕だと思うので、楽しみにしている。

桧森副委員長

しかし、無い袖はやはり無いということなので、演出はソフトの方で腕を振るうことで、よい施設になればよいと思う。基本設計がまとまれば、あとは、先ほど勝又委員がおっしゃったシミュレーションをやっていく。表方、裏方、働いている方々が動きやすい、仕事がしやすい、環境がよいというのが運営コストの削減につながっていく。それを考えて、もう一度この設計案をじっくりと考えていきたいと思う。

基本設計案についての議論は以上だが、事務局から何かあるか。

事務局

(今後のスケジュール、管理運営パブリックコメント実施について説明)

次第3 閉会

桧森副委員長

以上で本日の議事は全て終了した。これにて会議をする。委員の皆さま、傍聴にお越しの皆さま、お疲れさまでした。

全員

お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上